

207, 2000.

2) 伊東 直子, 加藤 拓, 草刈 玄: 歯科におけるレーザー応用について, レーザー協会誌25: 50-58, 2000.

歯科矯正学講座

【論文】

- 1) Yamada, K., Hanada, K., Sultana, M.H., Kohno, S., Yamada, Y.: The relationship between frontal facial morphology and occlusal force in orthodontic patients with temporomandibular disorder, *Journal of Oral Rehabilitation* 27, 413-421, 2000.
- 2) Uy-Co ET, Yamada, K., Hanada, K., Hayashi, T., Ito, J.: Condylar bony change and mandibular deviation in orthodontic patients - using helical CT and MRI -, *Clinical Orthodontics and Research* 3(3) 132-143, 2000.
- 3) Takeyama, M., Irie, K., Nakamura, H., Kominami, E., Hanada, K., Ozawa, H., Ejiri, S.: Immunohistochemical demonstration of cathepsins B and L in the periodontal ligament(PDL) of the rat molar, *Japanese Journal of Oral Biology* 43: 194-202, 2001.
- 4) Ochi, K., Yamazoe, K., Hanada, K., Maeda, T.: Experimental tooth movement alters the expression of TrkB-like immunoreactivity in the periodontal fibroblasts of rat molars, *Orthodontic Waves* 59(6) 393-401, 2000.
- 5) Ishii, K., Arai, T., Saito, I., Morita, S., Hanada, K., Ono, K., Takagi, R.: Effects of Hotz' plate-based two-stage palatoplasty in unilateral cleft lip and palate - A comparative study of subjects treated with one-stage palatoplasty and normal subjects -, *Orthodontic Waves* 59(6) 402-406, 2000.
- 6) Ono, K., Iida, A., Imai, N., Hayatsu, M., Takagi, R., Ohashi, Y., Asahito, T., Ishii, K., Morita, S., Hanada, K.: Effects of two-stage palatoplasty on maxillary growth - Comparisons of permanent dentition with patients treated by one-stage palatoplasty and non-cleft normal subjects, *Journal of Cranio-Maxillofacial Surgery* 28(1) 56-57, 2000.
- 7) Hayashi, T., Ito, J., Koyama, J., Yamada, K.: The accuracy of sonography for evaluation of internal derangement of the temporomandibular joint in asymptomatic elementary school children; comparison with mr and ct, *AJNR Am J Neuroradiol.* 22: 728-734, 2001.
- 8) Nakagawa, M., Kaneda, T., Arakawa, T., Morita, S., Sato, T., Yamada, T., Hanada, K., Kumegawa, M., Hakeda, Y.: Vascular endothelial growth factor (VEGF) directly enhances bone resorption and survival of mature osteoclasts, *FEBS Letters* 473: 161-164, 2000.
- 9) 花田晃治: 矯正歯科の将来像 近畿東海矯正歯科学会雑誌 35(1) 2-3, 2000.
- 10) 山田一尋, 小栗由充, 晝間康明, 花田晃治, 澤田宏二, 河野正司, 林 孝文, 伊藤寿介: 顎変形症患者における下顎頭骨形態, 関節円板転位がタッピング運動に及ぼす影響顎変形症患者における下顎頭骨形態, 関節円板転位がタッピング運動に及ぼす影響 日本顎関節学会誌 12(1) 88-97, 2000.
- 11) 布田花子, 森田修一, 山田秀樹, 長谷川暁子, 花田晃治, 鍛冶昌孝, 高木律男: 片側性唇顎口蓋裂患者の上下顎移動術に伴う軟組織側貌の変化 Cheek lineの検討 日本口蓋裂学会雑誌 25: 224-232, 2000.
- 12) 相原義憲, 関 康宏, 森田修一, 町田直樹, 若松孝典, 飯島健二, 近藤由香里, 中川公貴, 新部洋史, 原田史子, 花田晃治: 新潟大学歯学部附属病院を受診した矯正患者における治療に関する調査 特に混合歯列期の患者に注目して 甲北信越矯正歯科学会雑誌 7(1) 25-31, 2000.
- 13) 稲見佳大, 庭野和明, 森田修一, 花田晃治: 射出成型法により製作された矯正用ブラケットの接着強度について 甲北信越矯正歯科学会雑誌 7(1) 32-35, 2000.
- 14) 小野和宏, 飯田明彦, 今井信行, 福田純一, 早津誠, 高木律男, 新井 透, 朝日藤寿一, 石井一裕, 森田修一, 花田晃治, 大橋 靖: 二段階口蓋形成手術法施行した片側性唇顎口蓋裂児の永久歯列弓形態 一段階法施行例および健常児との比較 日本口蓋裂学会雑誌 25: 36-44, 2000.
- 15) 福田純一, 高木律男, 鍛冶昌孝, 服部幸男, 河田匠, 境 忠彦, 野村裕行, 花田晃治, 武藤祐一: 両側下顎枝垂直骨切り術施行症例の顎間固定中および術後の下顎の位置変化と咬合の変化について 日本顎変形症学会雑誌 10: 11-17, 2000.
- 16) 森田修一, 佐藤勇資, 山田秀樹, 花田晃治: 下顎枝矢状分割法を施行した骨格性下顎前突症例における術後15年以上にわたる顎態の変化について 日本顎変形症学会雑誌 10: 18-25, 2000.
- 17) 星 隆夫: 混合歯列期の矯正治療を依頼する際の診断基準と紹介時期について 小千谷市北魚沼郡歯科医師会報 10: 2001.
- 18) 町田直樹, 斉藤 功, 寺田員人, 川原のぞみ, 原田史子, 松久淳子, 宮城尚史, 山岸美紀子, 森田修一, 花田晃治: 新潟大学歯学部附属病院矯正科に来院した過去10年間の顎変形症患者に関する臨床統計的調査 甲北信越矯正歯科学会雑誌 8(1) 2001(印刷中).
- 19) 長沼一雄, 八巻正樹, 森田修一, 花田晃治: 矯正保定用超高分子ポリエチレン繊維(RIBBOND)の臨床応用例 甲北信越矯正歯科学会雑誌 8(1) 2001(印刷

中)。

20) 鳥養葉子, 森田修一, 朝日藤寿一, 花田晃治, 小野和宏, 高木律男: 正中唇裂の1例 甲北信越矯正歯科学会雑誌 8 (1): 2001 (印刷中)。

【著書】

- 1) 花田晃治, 伊藤学而編: 臨床家のための矯正Year Book '2000, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 2) 山田一尋, 福井忠雄, 花田晃治, 河野正司: 矯正治療に伴う下顎運動の変化, 咬合状態に起因する他臓器の異常, 厚生科学研究「口腔保険と全身的な健康状態の関係について」小林修平編 口腔保険協会, 東京, 166-174, 2000.
- 3) 山田一尋, スルタナハビバ, 森田修一, 花田晃治: 骨格性下顎前突患者の外科的矯正治療前後における重心動揺の変化 咬合状態に起因する他臓器の異常 厚生科学研究「口腔保険と全身的な健康状態の関係について」小林修平編 口腔保険協会, 東京, 175-177, 2000.
- 4) 山田一尋, スルタナハビバ, 花田晃治, 河野正司, 安藤雄一: 高齢者における下顎骨下縁皮質骨の暑さと全身骨量の関連 8020データバンク資料から 咬合状態に起因する他臓器の異常, 厚生科学研究「口腔保険と全身的な健康状態の関係について」小林修平編 口腔保険協会, 東京, 350-354, 2000.
- 5) 斉藤 功: 交叉咬合・偏位咬合, 不正咬合分類の歴史的背景, 矯正臨床における咬合分類 与五沢文夫監修, 115, 131-132, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 6) 山田一尋: 不正咬合分類の歴史的背景, 矯正臨床における咬合分類 与五沢文夫監修, 16-31, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 7) 斉藤 功: 不正咬合分類の歴史的背景, 矯正臨床における咬合分類 与五沢文夫監修, 16-31, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 8) 星 隆夫: 不正咬合分類の歴史的背景, 矯正臨床における咬合分類 与五沢文夫監修, 16-31, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 9) 山田一尋, 花田晃治, 林 孝文: 矯正患者の顎運動と顎関節病態 臨床家のための矯正Year Book '2000, 37-42, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 10) 鳥養葉子, 星 隆夫, 森田修一, 花田晃治: 頸椎の形態と顎顔面形態との関連, 臨床家のための矯正Year Book '2000, 59-67, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 11) 晝間康明: 矯正診断における3DC Tの活用, 臨床家のための矯正Year Book '2000, 76-89, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 12) 斉藤 功: 偏位咬合, YEAR BOOK 2000今日の治療指針, 208, クインテッセンス出版, 東京, 2000.
- 13) 山田一尋: MR I診断, YEAR BOOK 2000今日の

治療指針, 214-215, クインテッセンス出版, 東京, 2000.

【商業誌】

- 1) 山田一尋: 日本矯正歯科学会WEBの紹介 WEBと学会運営のあり方, ザ・クインテッセンス 19(8) 144, 2000.
- 2) 長沼一雄, 花田晃治: II級2類不正咬合の矯正治療後における咬合の安定性~長期的な評価~, ザ・クインテッセンス 19(11) 2327-2328, 2000.
- 3) 山岸敏夫, 花田晃治: 障害児の矯正治療を成功させるカギは?, ザ・クインテッセンス20(1) 221, 2001

【研究成果報告書】

- 1) 寺田員人, 森島繁生, 宮永美知代: 外科的矯正治療が表情認知に与える影響に関する研究. 平成12年度科学研究費補助金(基盤研究C)一般(1), 課題番号12671991) 研究実績報告書, 2001.
- 2) 花田晃治(代表), 森田修一, 寺田員人: 矯正治療後の顔貌予測システムのアルゴリズム開発に関する研究. 平成12年度 科学研究費補助金(基盤研究B)一般(2), 課題番号11470449) 研究実績報告書, 2001.
- 3) 斉藤 功, 朝日藤寿一: 歯牙移動時における各種神経ペプチドの骨吸収系細胞への関与の可能性を探る, 平成 12-14年度(2000-2002) 科学研究費補助金・基盤研究(CⅡ)・研究実績報告書, 研究課題番号 12671992
- 4) 森田修一, 朝日藤寿一: 下顎頭軟骨における基底膜型ヘパラン硫酸プロテオグリカンの局在意義に関する研究, 平成 12-13年度(2000-2001) 科学研究費補助金・基盤研究(CⅡ)・研究実績報告書, 研究課題番号 12671990
- 5) 花田晃治(代表), 石井一裕, 森田修一, 小林正治, 高木律男, 小野和宏: 国際規格による唇顎口蓋裂患者顎顔面発育の多施設比較研究のための企画調査, 基盤研究(CⅠ) 課題番号12897019 研究報告書 2001.

【講演・シンポジウム】

- 1) Ishii, K.: Effect of two-stage palatoplasty combined with Hotz plate, Center for craniofacial anomalies, University of California, San Francisco, San Francisco, U.S.A., May 9, 2000.
- 2) Yamada, K.: TMD and Orthodontics, 20th Annual Session of Filipino Chinese Dental Foundation, Manila, Philippines., July 23, 2000.
- 3) Hanada, K.: Adult orthodontics: Enhancing periodontal osseous defects, esthetics and restorative dentistry, 86th annual meeting of the American Academy of Periodontology in conjunction with the Japanese Society of Periodontology, Honolulu, Hawaii.,

September 18, 2000.

4) Hanada, K.: Academic Forum 2000「最近の矯正治療 21世紀に向けて」中国, 上海, 2000年6月14日

5) 花田晃治: 矯正歯科の将来像, 第42回近畿東海矯正歯科学会学術大会, 2000年6月18日, 大阪.

6) 山田一尋: 矯正治療と咬合・顎関節, シンポジウム「歯科臨床における咬合の現状」, 第22回与五沢矯正研究会, 東京, 2000年4月18日

7) 山田一尋, 八巻正樹, 花田晃治: 矯正臨床におけるインターネットの有効利用, 第19回日本歯科医学会総会テーブルクリニック, 東京, 2000年5月28日

8) 斉藤 功: 再植歯における歯根膜神経の修復過程, 第59回日本矯正歯科学会大会 サテライトセミナー「外力に対する歯周組織」, 大阪, 2000年10月26日

9) 森田修一: 成人の矯正治療, 第59回日本矯正歯科学会大会 サテライトセミナー「加齢と矯正治療」, 大阪, 2000年10月26日

10) 森田修一: 矯正治療と歯周組織, 日本矯正歯科学会生涯研修セミナー, 沖縄, 2001年2月11日

【学会発表】

1) Uy-Co ET, Yamada, K., Hanada, K.: Condylar bony change and mandibular deviation in orthodontic patients with TMD symptoms, 100th annual meeting American Association Orthodontists, April 28- May 3, 2000.

2) Ishii, K., Silvera. A., Quintero, Saito, I., Morita, S., Hanada, K.: Soft tissue cervicomental changes after mandibular set-back, 100th general session of American Association of Orthodontists, Chicago, USA. May 5-8, 2000.

3) Saito, I.: Introduction of adult cases showing bimaxillary dentoalveolar protrusion treated with standard edgewise appliance, The second Asia Pacific clinicians dental meeting organized by Quintessence publishing Co. Ltd., Tokyo, June 10-11, 2000.

4) Ono, K., Iida, A., Imai, N., Hayatsu, M., Takagi, R., Ohashi, Y., Asahito, T., Ishii, K., Morita, S., Hanada, K.: Effects of two-stage palatoplasty on maxillary growth - Comparisons of permanent dentition with patients treated by one-stage palatoplasty and non-cleft normal subjects. Zurich, Switzerland, July 1-5, 2000.

5) Ohashi, N., Robling, A. G., Burr, D. B., Turner. C. H.: Mechanical loading diminishes longitudinal growth rate and changes chondrocyte populations in the growth plate, the 22nd Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research, Toronto, Canada, September 25, 2000.

6) Hiroshima, K., Yamamura, K., Maeda, T. and Wakisaka, S.: Temporal and spatial distribution of c-fos neurons in the parabrachial nucleus following experimental tooth movement, 30th Annual Meeting of Society for Neuroscience, New Orleans, La., November 4-9, 2000.

7) 鳥養葉子, 森田修一, 晝間康明, 星 隆夫, 花田晃治, 林 孝文, 伊藤寿介: 下顎前突症例における下顎骨と舌骨との位置関係について CT画像による検討, 第33回新潟歯学会総会, 新潟, 2000年4月15日.

8) 中村康洋, 花田晃治: 歯の移動に伴う歯根膜内のマクロファージ関連細胞の分布変化について, 第33回新潟歯学会総会, 新潟, 2000年4月15日.

9) 鳥養葉子, 森田修一, 晝間康明, 星 隆夫, 花田晃治, 林 孝文: 下顎前突症例における下顎骨と舌骨の偏位について, 第10回日本顎変形症学会総会, 大津, 平成12年4月20-21日.

10) 山添清文, 越知佳奈子, 森田修一, 寺田真人, 花田晃治: 三次元的補正を行った正面セファログラムの重ね合わせ法に関する研究 第2報 下顎偏位症例の評価法についての考察, 第10回日本顎変形症学会総会, 大津, 平成12年4月20-21日.

11) 山田秀樹, 竹山雅規, 布田花子, 森田修一, 花田晃治, 本間克彦, 小林正治, 中島民雄, 鍛冶昌孝, 高木律男: 上顎前方歯槽骨骨切り術(Wassmund法)による軟組織側貌の変化 矯正単独症例との比較, 第10回日本顎変形症学会総会, 大津, 平成12年4月20-21日.

12) 中條智恵, 小林正治, 加納浩之, 本間克彦, 中島民雄, 鍛冶昌孝, 高木律男, 寺田真人, 花田晃治: 顎変形症患者への術後アンケート結果, 第10回日本顎変形症学会総会, 大津, 平成12年4月20-21日.

13) 毛利 環, 関 康弘, 森田修一, 花田晃治, 本間克彦, 小林正治, 中島民雄, 福田純一, 鍛冶昌孝, 高木律男: 下顎前方移動術のオーバーコレクションを可能とする術前矯正治療術式の考案 第10回日本顎変形症学会総会, 大津, 平成12年4月20-21日.

14) 鍛冶昌孝, 高木律男, 福田純一, 野村裕行, 境 忠彦, 田中 礼, 花田晃治: 口蓋裂患者に対する上顎前方移動術が鼻咽腔閉鎖機能に及ぼす影響について第10回日本顎変形症学会総会, 大津, 平成12年4月20-21日.

15) 田中 礼, 高木律男, 鍛冶昌孝, 福田純一, 野村裕行, 八巻正樹, 野村章子: 上下顎移動術を施行した部分無歯症の1例 第10回日本顎変形症学会総会, 大津, 平成12年4月20-21日.

16) 佐藤勇資, 森田修一, 山田秀樹, 花田晃治: 骨格性下顎前突症例における下顎枝矢状分割術後の顎態変化 15年以上経過した症例について 第10回日本顎変形症学会総会, 大津, 平成12年6月20-21日.

- 17) 朝日藤寿一, 石井一裕, 森田修一, 花田晃治, 小野和宏, 高木律男: Hotz床併用2段階口蓋形成術の矯正治療に及ぼす効果について. 第24回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京, 2000年6月12-13日.
- 18) 小野和宏, 高木律男, 飯田明彦, 今井信行, 朝日藤寿一, 石井一裕, 森田修一, 花田晃治: Furlow法を施行した口蓋裂児の混合歯列前期における顎顔面形態について. 第24回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京, 2000年6月12-13日.
- 19) 小野和宏, 飯田明彦, 今井信行, 高木律男, 新井透, 石井一裕, 朝日藤寿一, 森田修一, 花田晃治, 大橋靖: イブニングセミナー 5. Hotz床併用2段階口蓋形成手術法を施行した片側性唇顎口蓋裂児の顎発育. 第24回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京, 2000年6月12-13日.
- 20) 飯田明彦, 小野和宏, 今井信行, 高木律男, 濱本宜興, 小林正治, 朝日藤寿一, 毛利環, 田中みか子, 櫻井直樹, 野村章子, 清水光: 歯牙移植, 歯科インプラントを応用した顎裂部の咬合再建. 第24回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京, 2000年6月12-13日.
- 21) シルベラ アルチピアデス, 石井一裕, 新井透, 森田修一, 小野和宏, 花田晃治, 高木律男: Effect of two-stage palatoplasty combined with Hotz' plate in bilateral cleft lip and palate, 第24回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京, 2000年6月12-13日.
- 22) 鳥養葉子, 森田修一, 石井一裕, 花田晃治, 小野和宏, 今井信行, 高木律男, 林孝文: Hotz床併用2段階口蓋形成手術法施行患者の新鮮自家移植細片移植術の評価 X線CTを用いて, 第24回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京, 2000年6月12-13日.
- 23) 山田一尋, 福井忠雄, 佐藤勇資, 越知佳奈子, 鶴田明美, 若松孝典, 鳥養葉子, 花田晃治, 林孝文, 伊藤寿介: 下顎頭骨形態変化を伴う顎変形症患者のアンケート, 第13回日本顎関節学会 福岡, 2000年6月28-30日.
- 24) 福井忠雄, 森田修一, 花田晃治, 荒井良明, 澤田宏二, 河野正司: 歯のガイドの修正を行った閉口障害症例 第13回日本顎関節学会 福岡, 2000年6月28-30日.
- 25) 鳥養葉子, 森田修一, 朝日藤寿一, 花田晃治, 小野和宏, 高木律男: 正中唇顎裂の1例, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 26) 長沼一雄, 八巻正樹, 森田修一, 花田晃治: 矯正保定用超高分子ポリエチレン繊維(RIBBOND)の臨床応用例, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 27) 町田直樹, 齊藤功, 寺田員人, 川原のぞみ, 原田史子, 松久淳子, 宮城尚史, 山岸美紀子, 森田修一, 花田晃治: 新潟大学歯学部附属病院矯正科に来院した過去10年間の顎変形症患者に関する臨床統計的調査, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 28) 町田直樹: 叢生を伴うアングル 級上下顎前突症例, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 29) 笹川美也子: 開咬を伴う上下顎前突の一治験例, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 30) 澤田美穂: 歯根彎曲により非対称抜歯となった過蓋咬合症例, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 31) 越知佳奈子: 著しい叢生を伴うアングル 級成人症例, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 32) 相原義憲: 過蓋咬合を伴う上顎前突症例, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 33) 竹山雅規: ANGLE II級2類偏位咬合, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 34) 中村順一: 叢生を伴う前歯部反対咬合, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 35) 晝間康明: 前歯部切端咬合を伴う下顎前突症例, 第15回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2000年7月2日.
- 36) Sultana, M.H., Yamada, K., Hanada, K.: Changes in occlusal force and occlusal contact area after active orthodontic treatment, 平成12年度新潟歯学会第1回例会, 新潟, 2000年7月8日.
- 37) Uy-Co, E.T., Yanada, K., Hanada, K., Hayashi, T. and Ito, Y.: Condylar bony change and mandibular deviation in orthodontic patients - using helical CT and MRI, 平成12年度新潟歯学会第1回例会, 新潟, 2000年7月8日.
- 38) 中川麻里, 羽毛田慈之, 久米川正好, 花田晃治: 血管内皮増殖因子(VEGF)は直接的に成熟破骨細胞による骨吸収活性を促進した破骨細胞自身の生存を高める, 平成12年度新潟歯学会第1回例会, 新潟, 2000年7月8日.
- 39) 山岸敏男, 石橋宰, 澤田美穂, 花田晃治, 川島博之: エストロジェンおよびSERMはエストロジェン応答配列を含まない遺伝子プロモーターの活性をエストロジェン受容体サブタイプ依存性的かつ細胞特異的に制御する, 第18回日本骨代謝学会, 広島, 2000年7月19日.
- 40) 寺田員人, 稲見佳大, 原田史子, 花田晃治, 宮永美知代: 非接触三次元表面形状計測装置を用いた顔面部の計測について, 第7回美術解剖学会, 東京, 2000年7月22日.
- 41) 寺田員人, 中川公貴, 原田史子, 稲見佳大, 花田晃治: 一般の人の咬合力, 第5回日本顔学会大会, 鹿児島, 2000年8月19~20日.
- 42) 鳥養葉子, 森田修一, 星隆夫, 晝間康明, 花田晃治, 林孝文, 伊藤寿介: 顎変形症患者における下顎骨

と舌骨の偏位について,第59回日本矯正歯科学会大会,大阪,平成12年10月25-27日.

43) Alkhamrah, B., Terada, K., Yamaki, M., Morita, S. and Hanada, K.: Characteristic of mandibular growth in skeletal Class III individuals using morphometric analysis 第59回日本矯正歯科学会大会,大阪,平成12年10月25-27日.

44) 稲見佳大, 森田修一, 中川公貴, 寺田員人, 花田晃治: 上下顎移動術による中顔面軟組織の3次元表面形状変化の検討,平成12年度新潟歯学会第2回例会,新潟,2000年11月11日.

45) 廣島邦泰, 前田健康, 花田晃治: 歯の移動に伴う parabrachial nucleusにおけるFos蛋白の経時的・空間的発現について,平成12年度新潟歯学会第2回例会,新潟,2000年11月11日.

46) 饗場広和, 山村健介, 山田好秋, 花田晃治: 咀嚼時末梢感覚が外舌筋活動に及ぼす影響について,平成12年度新潟歯学会第2回例会,新潟,2000年11月11日.

47) 篠倉恵子, 池亀美華, 花田晃治, 小澤英浩: ラット臼歯の生理的遠心移動における有細胞セメント質のセメント細胞・セメント芽細胞のオステオポンチンの局在と発現,平成12年度新潟歯学会第2回例会,新潟,2000年11月11日.

【研究会発表】

1) 斉藤 功: 歯科矯正臨床について,東京 SJCD (Society of Clinical Dentistry) 第2回例会,東京,2000年9月24日.

2) 小野和宏, 飯田明彦, 今井信行, 高木律男, 朝日藤寿一, 石井一裕, 森田修一, 花田晃治: Hotz床併用二段階口蓋形成手術法を施行した片側性唇顎口蓋裂児の顎発育 永久歯列期の咬合状態について,第39回新潟県小児保健研究会 こどもの健康週間,新潟,2000年9月1日.

【その他】

1) 寺田員人, 国立科学博物館 特別展 大顔展(国立科学博物館・日本顔学会・読売新聞社主催)巡回展(2000年4月27日~2000年7月2日,札幌メディアパーク・スピカ,札幌市),(2000年7月20日~2000年9月24日,福岡市博物館)実行委員 展示担当: 美しい口もとをつくる デンタルアドバイス 咬合力測定コーナー.

2) 寺田員人, 花田晃治: 「最近のトピックス」, 顔の表情とコンピュータグラフィックス, 新潟歯学会雑誌 30(1) 75-76, 2000.

3) 中川麻里, 羽毛田慈之, 久米川正好, 花田晃治: 「最近のトピックス」, 破骨細胞性骨吸収と血管内皮増殖因子, 新潟歯学会雑誌 30(2) 231-233, 2000.

小児歯科学講座

【論文】

1) Kinoshita S., Mitomi T., Taguchi Y., Noda T.: Prognosis of replanted primary incisors after injuries. Endod. Dent. Traumatol., 16:175-183, 2000.

2) Taguchi Y., Kobayashi H., Noda T.: The palatally displaced canine in Japanese children. Ped. Dent. J., 10:155-159, 2000.

3) Hayashi S., Nakakura-Ohshima K., Ohshima H., Noda T., Honma S., Wakisaka S., Maeda T.: The developmental of terminal Schwann cells associated with periodontal Ruffini endings in the rat incisor ligament. Brain Res., 858: 167-171, 2000.

4) Matsuyama J., Sato T., Takahashi N.: Comparison between 16s rRNA genes PCR-RFLP analysis and biochemical tests for identification of Actinomyces naeslundii. Int. J. Oral Biol., 25: 83-86, 2000.

5) Sato T., Matsuyama J., Takahashi N.: 16s rRNA genes PCR-RFLP analysis for rapid identification of oral anaerobic gram-positive bacilli. Int. J. Oral Biol., 25: 87-91, 2000.

6) Watanabe J., Amizuka M., Noda T., Ozawa H.: Cytochemical and ultrastructural examination of apoptotic odontoclasts induced by bisphosphonate administration. Cell Tissue Res., 301: 375-387, 2000.

7) Otsuka Y., Mitomi T., Tomizawa M., Noda T.: A review of clinical features of 13 cases of impacted primary teeth. Int. J. Paediatr. Dent., 11: 57-63, 2001.

8) Ikegame M., Ishibashi O., Yoshizawa T., Shimomura J., Komori T., Ozawa H., Kawashima H.: Tensile stress induces bone morphogenetic protein 4 in preosteoblastic and fibroblastic cells, which later differentiate into osteoblasts leading to osteogenesis in the mouse calvariae in organ culture. J. Bone Miner. Res., 16: 24-32, 2001.

9) Shimomura J.: Isolation of tensile stress-responsive genes in cranial sutures of mouse calvariae. Thesis. 2001.

10) Takagi M., Yamada Y., Noda T.: Interactions between swallowing center, chewing center and supramedullary region in the induction of swallowing reflex. Thesis, 2001.

12) Kando M., Tanabe Y., Taguchi Y. and Noda T.: Cry analysis during dental treatment in early childhood. Thesis, 2001.

13) Shimizu A., Nakakura-Ohshima K., Noda T., Maeda T., Ohshima H.: Responses of immunocompetent